

平成26年度

東京学芸大学附属特別支援学校 研究協議会

教育課程の新たな展開に向けた取り組みⅣ

— 幼児期から青年期までを俯瞰した新版「支援内容配列表」—

本校の教育課程は「学習」「生活」「就労」「余暇」「コミュニケーション」の5つの支援内容区分を設け、幼稚部から高等部までの目指す子供の姿を想定して授業を系統づけしております。4年計画の最終年度である今年度は、これまでの指導実践の結果を評価しながら支援内容配列表の改定に関する提言を行います。また、文部科学省の丹野哲也先生をお招きし、特別支援学校における教育課程についてご講演いただきます。多くの方々にご参加を頂き、特別支援教育の充実に向けた議論を深める場になれば幸いです。



◆ 期日 平成27年1月30日(金)

◆ 日程

9:00	9:30	11:00	11:10	11:50	13:00	14:50	15:00	16:20
受付	公開授業	移動	セッション ポスター	昼食	全体会	休憩		講演

◆ 講演

知的障害教育の特色を生かした教育課程の創造 ～カリキュラムマネジメントの視点から～

丹野 哲也(文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官)

教育課程とは、学校の教育目標を達成するための羅針盤の役割を果たすといえる。

子供たちが、学校の教育目標に到達できるように、様々な障害特性やその学び方の特徴を踏まえた教育的な配慮の下、学校の教育活動が一人一人の子供たちに効果的に働くことを目指し、各教科等の内容が編成される必要がある。私たち教師には、羅針盤が示す方向性を確実に各教科等の指導計画や個別の指導計画に落とし込み、教育を展開することが求められよう。

- 主催 東京学芸大学附属特別支援学校
- 後援 東京都教育委員会 東久留米市
- 会場 東京学芸大学附属特別支援学校 成美教育文化会館

◆公開授業

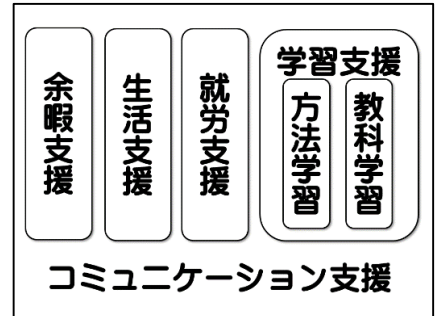
- 学習支援「思い出遊び」(幼稚部)ほか
- 生活支援「くらし」(高等部)ほか
- 就労支援「作業学習」(中学部)／「進路」(高等部)
- コミュニケーション支援「象徴遊び」(幼稚部)／「つたえよう」(小学部)ほか

◆ポスターセッション ※支援内容区分毎の公開授業に関するポスター発表。授業展開や使用教材等に関する協議。共同研究者も参加。

◆全体会 ※研究の概要および支援内容区分毎の提案。

本校独自の「個別の教育的ニーズ支援システム」において、10余年の授業実践の評価をもとに、教育課程(5つの支援内容区分)の見直しを行った。

4年計画の最終年度は、本校の教育課程を俯瞰できるように、全体での提案を予定している。



教育課程「5つの支援内容区分」

支援内容区分	提案の要旨	共同研究者
学習支援	本校独自の「方法学習」における支援内容配列表の改訂に取り組んだ。昨年度の幼稚部の研究での提案を起点に、幼児期から青年期までを俯瞰して自己意識と共感性のスキルを育むためのICTの活用の方法を追加補充した。	橋本 創一 林 安紀子
生活支援	本校では、生活支援を将来の生活を主体的に切り開いていこうとする力への支援と定義する。今年度は、これまでの幼稚部と高等部の研究を基に、「清潔で衛生的なくらし」をテーマとして、ライフステージ間の関連性と将来の生活への繋がりについて提案したい。	奥住 秀之 濱田 豊彦 村山 拓
就労支援	就労支援は、地域社会の中で主体的に働くための知識、技能、態度への支援と捉えている。今年度の研究では、これまで中学部で行ってきた研究を基に、支援内容配列表を検討し改訂した。また、それに基づいて、改定を反映した授業研究を行った。	伊藤 友彦 加瀬 進 澤 隆史
コミュニケーション支援	本校では、コミュニケーション支援を幼稚部から高等部に至る縦軸と家族との関係から他人との関係へ広がる横軸で捉える。今回はこれまでの研究を基に、対人関係の基礎としての自他の区別、児童期・青年期に大きく変化する仲間関係の要素を追加した。	小笠原 恵 藤野 博

□申し込み方法

同封のもしくは、ホームページに掲載されている「参加申込書」に必要事項をご記入の上、ファックスまたはメールでお送りください。

□締め切り

平成27年1月21日(水) 以降はお問い合わせください

□費用

参加費:2,000円 お弁当代:800円(ご希望の方のみ)

□問い合わせ先

東京学芸大学附属特別支援学校 TEL/FAX 042-471-5274/5275

〒203-0004 東京都東久留米市氷川台1-6-1

URL: <http://ns.yougo.u-gakugei.ac.jp> Email: sskenkyu@u-gakugei.ac.jp

研究主任:井上 剛